

令和7年度

指導班だより

R8. 2. 13

宮城県大河原教育事務所 指導班

令和7年度も残すところあとわずかになり、幼稚園等・学校では次年度の教育計画作成に向けて準備をされている時期かと思えます。教育事務所で1・2月に行われた会議についてお知らせいたします。

<令和7年度第2回大河原教育事務所管内学力向上対策会議について>

令和8年2月5日(木)に大河原教育事務所管内市町教育委員会学力向上担当者及び各市町校長会学力向上対策担当者にお集まりいただき、標記会議を開催しました。

9月に実施した第1回の会議では、令和7年度の全国学力・学習状況調査の結果について、県教育庁義務教育課及び県総合教育センター担当者の報告後、学校訪問の形態が変わったことによる成果と課題についてグループ討議をしました。「8月のC訪問1回目を迎えるまでに、5月から先生方が自発的に準備をし、6月後半から指導案づくりに着手した。」「各校の状況に応じて学校訪問の形式を選択したことは有効である。」などの意見が出され、情報共有を図りました。

今回は、県教育庁義務教育課からは、塩竈市、登米市で実施した「みやぎの算数教育改善プラン事業」について、県総合教育センター担当者からは、「令和7年度宮城県検証改善委員会報告書」の活用の推進について報告がありました。そして、各市町教育委員会の御担当者及び校長先生方より、教育委員会及び学校における学力向上のための取組について御報告いただきました。

- ・学級づくりが一番大切。安心して分からないと言える関係性の構築が大切。
- ・テーマは共有。トップダウンではなく、先生方のニーズをどのように掘り起こしていくかが課題。
- ・紙媒体の調査からCBT方式へかえたことにより、結果のフィードバックが早くなり、次年度に向けた対策を講じやすくなった。
- ・町教委のサポートによる検定料負担や町独自の算チャレや町塾が実施された。
- ・C訪問は授業づくりにおいて深まりがあって良かった。



初任者(2年目)研修事務所研修③、学力向上指導員研修会②について

令和8年1月13日(火)2年目研事務所研修③では、学校でも管理職や同僚にプレ発表をするなど、事前の準備を丁寧に行っていることが伝わってきました。取組内容や実践発表、グループ内の他者の発表に対する質問・意見の様子から、児童生徒との関りを大切にしようとする意識が高まってきた印象を受けました。ご指導いただいた校内及び中堅研の先生方、ありがとうございました。来年度は教員になって3年目となり、引き続き「教員としての探究」を続けてほしいと思います。

令和8年1月21日(水)学力向上指導員研修会②では、学校訪問について一人一人が「訪問にあたっては重責や緊張を感じた。中学校との違いや小中のつながりを学習指導要領で再確認した。さらに学んでいきたい。」「分かりやすく端的に伝えることは難しかった。他校の取組を校内でも活かせるようにしたい。」など様々な観点から御報告していただきました。

また、今年度教科指導力研修会には管内外から92名の参加がありました。公開授業についての研究協議では、全員が「参考になった・まあまあ」と回答し、校内で担当教科が一人のため、他校の先生方と意見共有する大変貴重な時間と捉えて参加して下さった先生方も多かったようです。次年度も、学力向上指導員のすばらしい授業を参観できる機会を提供していきたいと思えます。

